リハビリテーション学部における産学連携推進の連携モデルの構築

代　表　者　：　新宮尚人（リハビリテーション学部長）
分　担　者　：　飯田妙子（産学連携推進リーダー），
柴本 勇（リハビリテーション科学研究科長），
矢倉千昭（理学療法学科），泉 良太（作業療法学科），
佐藤豊展（言語聴覚学科）
連 携 機 関　：　尾上智彦，長嶋桃子，山田一仁，酒井英彰，波多江早織（杏林堂薬局）
協　力　者　：　高山真希（理学療法学科）

【産学連携推進プロジェクトに至る経緯】

リハビリテーション学部の産学連携推進プロジェクトは，学部の事業計画の 1 つとして 2019 年度より開始した．初年度は学部教員はじめ，他大学における企業との連携状況について調査を行った．その結果，本学部で企業と連携している教員は約 3 割であり，8 割の教員については部分的にあるいは十分連携可能であるという回答であった．しかし，現在，本学には産学連携についての担当部署がないため，手続きなどで不便なことが多いという意見があった．以上より，本学の体制整備に関する課題を以下のとおり明確化した．

課題 1　他大学では企業と教員の連携であるが，本学では学部・学科の教育特徴・資源を活かし，在学生が主体的に学ぶことを目的に“教育”中心の産学連携を推進する．
課題 2　現在は教員の業務（教育・研究活動）として行うことができない体制であるため，学生教育や研究の一環として実施できるよう，関係部署との調整・環境整備を行う．

上記の課題を解決するため，2020 年度は複数の企業と情報交換を行い，学生を交えた取り組みの実現可能性について検証を行った．
連携機関の 1 つである杏林堂薬局は，静岡県内に多くの店舗を有し，さまざまな方法で地域住民の健康と暮らしを支える活動（健康教室，イベント実施等）を管理栄養士が中心となり行っている．リハ学部産学連携推進の目的と杏林堂薬局の「専門的な知識を組み込んだ地域支援を展開したい」というニーズが合致し，2020 年度より下記に記す具体的な活動が開始された．

① 杏林堂薬局との動画作成での連携

コロナ禍のため，対面でのイベント参加などが制限されたが，オンラインを活用し，学生中心に杏林堂薬局と動画を作成することができた．全ての動画は YouTube で閲覧可能である．

② 産学連携プロジェクトの実施に伴う環境整備

実施にあたり，実施方法については地域連携推進センター・大学総務部と書面等の整備を行った．企業との連絡調整については，教員自身がコーディネートを行った．
実施後の学内外への広報活動においては入試・広報センターと情報共有し，本プロジェクトの周知を図った．

【2021 年度に取り組むべき目標】

2020 年度の活動を踏まえ，2021 年度の産学連携推進の到達目標は，「連携企業との関係を強化し，連携内容のモデル化を検討すること」，「連携に必要な学内整備を実施すること」とした．

【実施報告】

① 企業・学生・教員による連携事業の実施

連携企業との関係を強化し，連携内容のモデル化を検討するため，2020 年度の活動の継続および新しい連携事業の模索を行った結果，下記の 3 つの企画を実施することができた．

・「心と身体の健康」をテーマにした動画作成の実施

2020 年度に引き続き，作業療法学科学生と杏林堂薬局のコラボ企画として実施した．「自宅でできる，心と身体への健康支援」をテーマに，アロマキャンドル作りと作業療法の専門知識を盛り込んだ動画を作成した．完成した動画については，杏林堂薬局 YouTube で公開中である．

・オンライン運動教室の実施

理学療法学科学生と杏林堂薬局のコラボ企画として，2020 年度に実施した運動に関する動画作成をきっかけに杏林堂薬局より新たにご提案いただき，杏林堂薬局主催のオンライン運動教室の講師を担当した．内容は日常生活でも行える運動プログラムと，理学療法の専門知識を組み込んだ一次予防に関するミニ講義である．

・店舗イベントの実施

本学部より 3 学科の特色を盛り込んだイベント企画の提案をしたところ，杏林堂薬局と湖西市などで実施予定の BasS 事業実証実験（注）への参加をご提案いただいた．

イベントは「測定」を中心とした体験型で行い，測定結果が標準値から低下している項目について家で実施できる予防法を指導し，日常生活に生かしていただけるよう資料を配布した．イベントには湖西市長・副市長が来訪され，内容やリハビリテーション専門職の専門性，一次予防の必要性についての情報共有も行った．

3 学科の実施を予定していたが，コロナの感染状況を考慮し，言語聴覚学科のみの実施となった．

② 連携に必要な学内整備

連携に必要な学内整備については，下記の 2 点が整理された．

・企業との連携活動をスムーズに進行し，また本学部の特色のある活動を学内外に広く周知をするために必要な整備については，その都度関連部署（地域連携推進センター，入試広・報センター，大学総務部）と情報共有を行った．

・本学部教員が現在実施している産学連携について，大学ホームページにて公表し，本学部の seeds を企業への周知を図る必要がある．学部教員の情報については収集済みであるが，掲載場所については引き続き検討を行っている．

【結果】

① 「連携企業との関係強化および連携内容のモデル化」について

2020 年度の活動の継続（動画作成）に留まらず，新しい企画への発展（店舗・オンラインでの企画の実施）が行えたことから，連携企業との関係性は強化されていると考えている．

また，理学療法・作業療法学科においては，2020 年度の活動をモデルとして今年度の企画を実施した．また，学生主体の取り組みであるため，活動を経験した学生から新しく参加する学生への情報伝達も一部では行われており，「連携実践モデル」が形成されつつある．

② 「連携に必要な学内整備」について

連携企業との活動の成果については，大学ホームページや杏林堂薬局の SNS，リハビリテーション学部各学科SNS（ブログ，インスタグラム）にて発信を行った．学内外から反響をいただいたが，さらに広報範囲を広げるための工夫が必要であると思われる．

学部内教員の産学連携に関する情報については未だ掲載に至っていないため，今後掲載場所等について学内で関係部署との検討を進めていく．

【今後の課題】

本事業は 3 年が経過し，本学部による地域企業との連携が形作られてきている．また，地域の課題解決のためのアクティブラーニングやリハビリテーション専門職の広報の一助としての成果も少しずつあげられている．今後は，この連携を強化・維持できる体制づくりに加え，企業との連携事業の広報を通して，リハビリテーション専門職の周知や新たな連携の可能性につなげていけるよう検討を図っていきたいと考える．

注）BasS 事業実証実験について

湖西市が運行するコミュニティバスと市内企業が運行するシャトルバスが連携することで，両者の効率性及び利便性の向上，ひいては市内経済の活性化に資する施策の実施可能性等について調査・検討を行った実証実験である．

BasS の運行ルートに杏林堂薬局店舗があり，買い物や調剤等の所用での立ち寄りだけでなく，健康測定や健康教室の開催など，活動や外出のきっかけになるようなイベント企画を予定されていたところに参加させていただいた．

参照：https://www.tut.ac.jp/docs/PR201127.pdf